



# ひだまり

さくら千手園 佐倉市青菅1019 043-462-2008  
 木の宮学園 佐倉市青菅1051 043-463-1008  
 レインボー 佐倉市青菅1051 043-463-1128

sakurasenjuen@deluxe.ocn.ne.jp  
 kinomiya@green.ocn.ne.jp  
 s-rainbow@smile.ocn.ne.jp

目次	
散歩道	1
さくら千手園	2
千手園日記	2
木の宮学園	3
木の宮日記	3
第17回千手会夏祭り	4~5
サポート	6
ボランティア紹介	6
新任職員紹介	6
アプローチ	7
地域生活を支える(その3)	7
情報フラッシュ	8



①地震体験車



②応急救護



③消火訓練



④夜間訓練

## 散歩道

千手会は9月3日を「防災訓練の日」と設定し終日、職員の防火・防災思想普及教育を関係機関の協力を得て二年振りに実施した。今年には施設の大規模改善後初めての訓練で総てが検証の対象であったが、日頃の訓練が功を奏して予想以上の早い避難で無事終了した。特に今年には加齢で移動困難な利用者を車椅子で救助する車椅子救助班を編成する等、これまでに無い訓練を実施した。中でも夜間の避難訓練には、地元消防署・消防団の隊員が職員に先駆けて利用者の避難・誘導或いは救出等実践さながらの訓練を展開した。

「防災の日」に実施した訓練は、①：関東大震災・阪神淡路の大地震の震度7を体験、②：応急救護の要領、③：誰でも使える消火器の実消火訓練、④：深夜の消防署との共同訓練で消火活動する志津消防署隊員、その他午前は人工蘇生法の体験、午後は消防署次長による貴重な体験談の防災講話を拝聴した。本訓練を「北総よみうり」新聞及びケーブルテレビが取材し広く市民に広報した。深夜まで訓練に参加された多くの関係機関の皆様へ深く感謝申し上げます。



# さくら千手園

## 親子宿泊旅行

9月10日・11日の2日間、千葉・横浜方面に親子宿泊旅行に行ってみました。台風の影響が危ぶまれましたが、皆の想いが通じてかお日様が常に出ていました。

1日目。ズーラシアで沢山の動物たちと会いました。広い園内を次はどんな動物に会えるかな?とワクワクしながら歩きました。

中華街でのお昼は、海老のチリソースや豚の角煮等、盛り沢山の料理を食べて満腹になりました。海ほたるでは、海を見て大喜びする方、お土産を買う方と思いに楽しめました。

ホテル三日月のお風呂でのんびりした後、お待ちかねの宴会突入。「お魚美味しいね」「フラダンス素敵だね」「カラオケ早く歌いたいよ」との声が聞こえてきました。保護者からは「ホテルの部屋が綺麗」「お風呂の種類が多くて良かった」との感想。

2日目。海の仲間たちのいるシーワールドへ。ブルーガの輪くぐりやシャチのジャンプを見て思わず大きな拍手。悠々と泳ぐ魚たちを見て癒された方もいたはず。

旅行の締め、丸竹土産センターへ。美味しそうな海産物を見て思わず目移り。沢山のお土産と思いを詰めて帰りました。

(上原)



## 千手園日記

### 1都13県走破

「あずさ」「しなの」「しらさぎ」そして上越新幹線。新宿から様々な特急電車を乗り継いで、1日目は名古屋、2日目は和倉温泉に泊まって朝から夕方までずっと電車に揺られました。手にはジュースとお菓子を握り締め窓から見える景色を眺めます。そして、乗り継ぎを待つ時間には名物のそばやうどんを堪能し、駅弁を購入したらまた電車に揺られる事を繰り返していました。

宿泊先の名古屋では名物味噌カツを食べ、和倉温泉ではおいしい海の幸と温泉を楽しみました。

### デイスニー制覇

真夏のまぶしい陽射しのさす中、一泊二日で夢の国デイスニーリゾートへ行ってきました。利用者も職員も大汗をかきながら、たくさん乗る物に乗り、大絶叫をしてきました。乗り物に乗るたびに、R・Yさんは、「ちゃんと、戻ってこれるの?」ととても不安そうにしていました。全ての乗り物を制覇してきました。また、久しぶりの外出のT・Hさんも、炎天下の中、たくさん歩き笑顔もたくさん見せてくれました。また、食事の際甘い甘いチョコレートパフェ

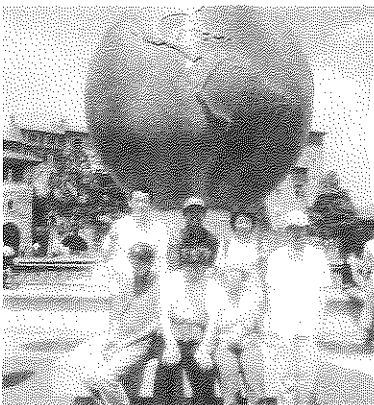
ました。たった3日間で1都13県を移動するハードな予定だったけど、信州の山なみ、日本海と多彩な景色を満喫する事が出来ました。でも、お金がかかりすぎた事を申し訳なく思っています。

(太田)

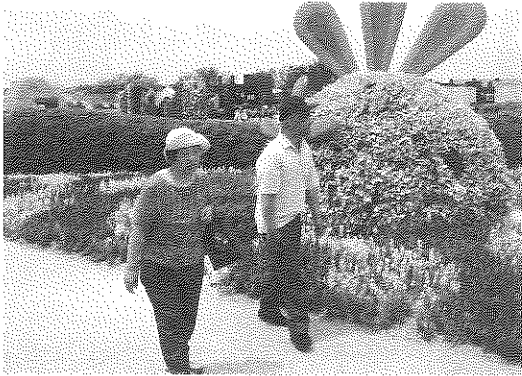


を自ら希望し、ほつぺたが落ちてしまうほど、満足そうに食べていました。正直暑さとの戦いの二日間でしたが、そんな暑さにも負けないくらい、たくさんはしゃぎ、楽しんできました。

(矢島)



# 木の宮学園



夏です！夏と言えばやはり海です。と言うわけで私達は海を求めてここ大洗海岸までやってきました。

1日目は大洗水族館にて海の様々な生き物達に触れてきました。大きな水槽の中で泳いでいる凶暴な歯を剥き出しにしたサメや、温和な目をしたマンボウやアザラシ。皆真剣な表情をして覗き込んでいました。

2日目は待ちに待った海水浴です！太陽で熱せられた砂の上

## WOOマンボ！！ in 大洗

をタップダンスでもするように波打ち際まで移動します。その場でサンオイルを取り出し、体を焼く方、海に入り上手なクロールを披露する方。岩場にいるカニやワカメを熱心に観察する方。皆それぞれに夏の大洗海岸を堪能していました。

帰りのワゴン車の中では「楽しかったね」「また海に入ろうね」と二日間の思い出を語り合いました。  
(小石)



## 木の宮日記

### ぐるっと浜名湖

「うなぎ好き?」「うなぎは食べるよ」「じゃあいいね」というような話をしながら6月2日を迎えました。「うなぎはどうでもええ、花見たいわ」という話もあり、色々な事を楽しめていいな、と思いつつ浜松市内に入りました。

浜名湖でのドライブより昼食のうなぎスパやうなぎドッグを楽しみ、ホテルに入りました。

浜名湖花博会場はとても広く、見た事もない花々があり、きれいと思うよりもスゴイと感じる物がありました。「ちょっとつかれたけどキレイだったね」と話をして床に着きました。3日目はちょっとクラシックな遊園地を楽しみ帰路に着きました。「あっスッポンは?」  
(仲田)

### 夏はやっはいバーベキュー



7月16日金曜日。男性4名と女性3名、向かうはポティロンの森。天気はくもりでしたが、まさに「夏」という暑さでした。

到着すると冷たい物で一休み。すぐに昼食のバーベキュー。バーベキューはやっぱり屋外!の予定でしたが、屋内の場所を発見!というわけで涼しいログハウスで始めました。野菜にお肉にソーセージ。皆で食べるとどれも美味しい。

お腹一杯になったところで園内を散策。カラフルな汽車に乗ってぐるっと一周。お洒落な建物やかわいい動物達に皆さん笑顔でした。

お土産もしっかり買ってポティロンの森を後にしました。  
(小川由)

# 行事担当より

待ちに待った夏祭り当日は「盆踊りやるんだね、半被早く着たいよ」「たこ焼きや、かき氷沢山食べたいな」など会話の内容は夏祭り一色で、園の皆は待ちきれない様子です。夏祭りが始まる直前、突然の大雨が降り出してしまい心配しましたが、皆の強い願いが届いた様で雨は上がりました。待ちに待った夏祭り開会式。今年度から両施設自治会の挨拶がありました。とても堂々と挨拶をして下さいました。「さあ、模擬店全部回るぞ」と職員の手を引きお祭りを満喫する方、盆踊りの曲を聞いて楽しい気分が盛り上がる方などなど、それぞれが楽しい夏祭りを過ごしました。頼もしいボランティアのご協力や地域から遊びに来てくださったお客さん、ご家族の方などとても沢山の参加とお力添えを頂き賑やかで楽しいお祭りとなりました。来年度もどうぞ宜しくお願い致します。ありがとうございました。

開会宣言  
「これから千手会夏祭りを  
始めます！」



みんなと輪に  
なって踊ろう！



いっぱい食べて、  
いっぱい踊ったよ！

# 第17回 千手会夏祭り



次は、  
どこに行こうかな？

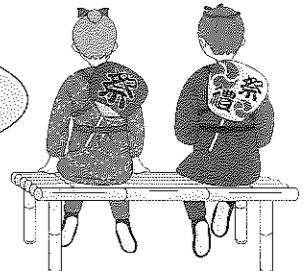
『勇翔太鼓さんからのコメント』  
「演技する場所がいつもと違ったり、突然雨が降ってきたり、アクシデントもありましたが、気持ち良く演奏する事ができました。」



大勢人がいるけど  
もぎ店全部回るソ！

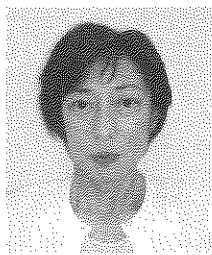


「焼きたてのとうもろこしは、  
いかがですか？」



# ボランティア紹介

昨年春に参加した市民ロードレースで、目の不自由な方と一緒に走っている男性を見かけました。その時初めて、「こういう風に誰かの役に立つ事もできるんだ。」と気付きました。それまでボランティアをやってみたくて、自分には何ができるのだろうかという所



高澤 宣子

「こんにちは、元氣？」「ヤー」等と挨拶を交わして今月も洗濯物たたみが始まります。利用者の方々と、「散歩に行くの」「ドライブに行くの」等一緒に話をしたり、肩を揉んでくれたり賑やかです。衣服に書いてある名前が分からなかったり、収納棚の名前の位置が分からず、まごついては利用者の方に尋ねたりしながらなんとか終了します。あんなに沢山あって、座るところもなかったのに、みんなの協力があったからこそだと思いました。以前より地域の施設でボランティアがしたいなあと思っていた所、知り合いの方より「一寸やってみない」と声をかけられたのが始まりでした。娘の陸美も誘い一緒に月1回通っています。当初はとまどう事が多々ありましたが、やっとなんて最近慣れてきました。

で、一歩踏み出せずにいたのです。大好きな走る事でそれが出来るのなら、こんなにステキな事はないと思えました。そして縁あって、一年程前から木の宮学園の利用者の方達と一緒に走らせていただいています。仕事の都合で平日の練習はなかなか一緒にできませんが、木の宮の方からの「ロードレースの伴走をお願いできますか。」という電話を楽しみにしています。一緒に走る方がそのレースを、自分の思う通りに楽しく走れるといいなあと思うと、自分の日々の練習にも身が入ります。これからは走る事を通して、いろいろな方達と、コミュニケーションをとっていけたら嬉しいですね。

利用者の方は皆兄弟の様に、けんかをしたり、助け合ったりして暮らしています。でも施設ではなく自分の家族の所で生活が出来たらもっと嬉しうだろうなと感じました。



# 新任職員紹介

5月から千手園の厨房で働いている武田です。最初は右も左も分からず、夢中で仕事をしていたのですが、最近やっとなんて厨房の様子にも慣れてきました。しかし、まだ分からない部分も多く、毎日が学ぶ事の連続です。厨房という場所柄、利用者の方々と接する事が少なく、名前を覚えるのに苦労していますが、頑張っ



給食補助員 武田 典子

張って覚えていこうと思います。他の職員の方や利用者の方とは食堂以外で接する機会がありませんが、どうぞよろしくお願ひ致します。

7月から千手園の事務職でお世話になっております。



事務員 荻原江利子

以前は、一般企業で事務職をしておりました。住まいは四街道です。家族は夫・息子2人・両親の6人家族です。あと犬が1匹います。年齢は中年です。

施設は初めてですが、みなさんとふれあってたくさんお話が出来ようになりたいと思います。

不慣れですが精一杯頑張りますのでどうぞ宜しくお願ひ致します。

こちらにお世話になり4ヶ月がたちました。施設の目的を理解しその目的に向かって役割があり、その実践がどう図られて



作業指導員 久保田貴子

いるのか、その理解と認識を基にして、初めて施設の職員として働き、直面する様々な状況や現実に出会いながら、強く豊かに成長できるように努力していきたいと思っています。

人間は出来ないときは一生懸命がんばりますが、できるようになると大事な事を忘れてしまうことがあります。今感じている様々なことを忘れずに仕事を楽しくしていけたらと思います。宜しくお願ひ致します。

# Approach

アプローチ=接近する・研究方法

## 地域生活支援センター(NeCo) 中核地域生活支援センター「すけっと」開設

社会福祉法人 愛光  
地域総合コーディネーター

城所 文恭

千葉県で推進してきた「健康福祉千葉方式」のなかで、(誰もが)(ありのままに)(その人らしく)(地域で暮らす)という理念が提案されました。その考えかたに基づいた、地域福祉像を実現する方法の一つとして、中核地域生活支援センターが千葉市、船橋市を除いた千葉県内14地域に設置されることになりました。

名称は、いんば中核地域生活支援センター「すけっと」としました。〇〇ネットと名づけることも検討しましたが、中核センターより実際の現場がネットワーク化されることにより、よりよい支援ができるものと考えて、ネットを付けない名前にしました。事務所は、施設から離れて独立した形をとるため、JRの佐倉駅から10分程のところになります。建物は側面が広かったので看板を設置しました。「すけ

と」の文字が、JRをまたぐ寺崎陸橋から見えると思います。ただし、渋滞するところなので脇見運転にはご注意ください。

あわせて、佐倉市障害者生活支援事業の「アシスト」も同じ事務所に移転しました。また、地域療育等支援事業も、中核地域生活支援センターに統合されることとなりますが、生活支援を含めた活動が可能かどうか疑問が残ります。ただし、現在行われている相談と地域生活支援が後退してはならないと考えています。

これから、どのような形ができあがっていくのかわからない部分もありますが、地域支援のネットワークができるようご協力お願いいたします。

事業内容については簡単ですが以下のように思います。

### 1、対象の地域

印旛地区11市町村(印西、印旛、栄、佐倉、酒々井、白井、富里、成田、本楚、八街、四街道)です。

### 2、事業内容

(1)地域総合コーディネーター事業  
当事者、公的機関、事業者、福祉的資源と地域住民のニーズをつなげ、利用者に必要なサ

### 3、支援体制

ビスを提供する活動を行う。

(2)相談事業

(3)権利擁護事業

(1)ふれあい地域生活支援センター

在宅介護支援センター、地域生活支援センター、地域子育て支援センター等の中で、無償で協力できる事業所を指定する。そして、福祉全般の一次窓口業務を担う。

(2)地域福祉サポーター

地域総合コーディネーターの活動を補佐する。

(3)福祉救急隊



## レインボーの今後について

平成13年10月より障害児(者)地域療育等支援事業を千葉県より受託し、3年間相談事業を中心に実施してきました。今年度10月よりこの事業は中核地域生活支援センターが担うことになり、事業としての名称はなくなります。レインボーは中核地域生活支援センターの許可は受けていませんので、地域福祉支援計画の対象者横断的なワンストップ、365日、24時間体制での支援は出来ませんが、今まで登録され継続して相談に来られていた方々が今後も同じような形でサービスが受けられるように、様々な機関と連携をして存続させていきたいと考えています。地域療育等支援事業の4事業全てを続けることは困難ですが、県の事業として訪問と外来は継続して行えます。コーディネーター事業は中核地域生活支援センターに統合されましたので、細かな配慮に欠ける部分はあるかもしれませんが、しかしなんとか皆さんの期待とニーズに応えられるように努力していきたいと思

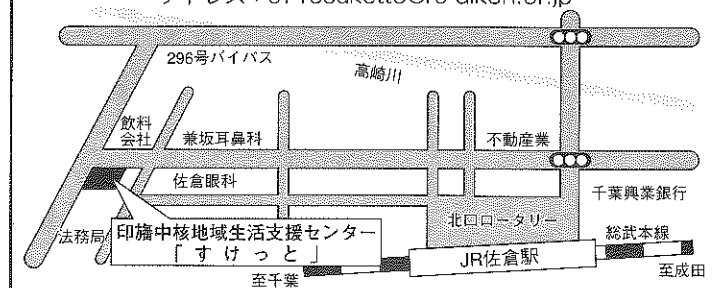
います。具体的な支援内容については、また改めてお知らせします。これからもどうか今まで同様のご理解とご協力を賜りますようお願い致します。

## 印旛中核地域生活支援センター すけっと

〒285-0811 佐倉市表町1-18-7 (JR佐倉駅より徒歩10分)

TEL 043-483-3718 FAX 043-483-3719

アドレス: 3718suketto@rc-aikoh.or.jp



ご寄付に感謝いたします

千手会夏まつりにご支援・ご参加いただきました皆様へ

バザーのお礼(保護者会)

今年も8月7日に千手会夏祭りの前に慣例のバザーを開催することができました。これもひとえに佐倉市や市民各位の暖かいご支援や寄贈品ご協力の賜と厚くお礼申し上げます。特に広報さくらにはバザー暮品のお願いやボランティアの募集を掲載して頂き、地域の皆様の福祉活動に深いご理解と協力を賜り心より感謝致しております。又バザー開催に対し、ボランティアの方々や職員・保護者会の皆様のご協力にも感謝申し上げます。善意による寄贈品を即売し

一七五、九六五円の収益金を得ることができました。収益金も減少傾向にあります。反省点は改善しこれからも貴重な寄贈品有効活用していきたいと思っております。今後共変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

すすとも共にお礼申し上げます。

いちおし作品ークッキー班ー

今回のいちおし作品は冬期限りの「シユガーナッツ」です。アーモンドをオーブンで数時間焼き、香ばしさを出します。砂糖を使ってアーモンドをコーティングします。砂糖と水を煮詰めてあめに仕上げアーモンドを入れます。このタイピングが難しく、早すぎるとコーティングが難しく、少しでも遅いとあつという間に固

まってしまう。アモンドに白い砂糖のコーティングが出来れば成功です。コーティングした物を再度煮詰めた黄金色のあめに仕上げます。作る人は煙りと暑さにも負けず頑張っています。

あめ状になったら網に一つ一つ手早く広げ、乾燥です。時間との戦いです。冬はあつという間に冷めてくつついてしまいます。最後の仕上げの袋詰め、袋も粒も小さいため、こぼさぬよう皆さん集中しています。

昨年の十二月から販売を開始致しかなりの売筋です。今年も10月頃より販売予定です。暑さに弱い製品ですので冬期のみ、西部地区福祉センターの売店や販売会でも出品しています。一度ご賞味下さいませ。

次回の新製品としてパイの試作をクッキー班のメンバーで試行錯誤しています。商品化したらまたお知らせします。(森)

行事予定

10月

- 7~8日 個別外出(草津温泉)
- 14日 第14回フライングディスク大会
- 22日 手をつなぐスポーツのつどい
- 23日 第9回木の宮フェスティバル
- 27~29日 個別外出(群馬の温泉)
- 28~29日 グループ旅行⑤

⊕ ⊖ ⊕ ⊖ ⊕ ⊖

11月

- 1日 個別外出(伊香保温泉)
- 11~12日 グループ旅行⑥
- 13~15日 個別外出(山口方面)

⊕ ⊖ ⊕

12月

- 2~3日 グループ旅行⑦
- 13~15日 個別外出(ゲーム)
- 21日 千手会年忘れ会

⊕ ⊖ ⊕

1月

- 12日 餅つき会 ⊕・15日 ⊖
- 24~25日 個別外出(温泉)

⊕ ⊖

⊕:千手園 ⊖:木の宮学園



おめでとうございます

ご結婚

7月25日 森 文江(旧姓河野)

(木の宮学園)

よろしくお願ひします

久保田貴子(さくら千手園作業指導員) 市川 ゆり(木の宮学園作業指導員)

お世話になりました

夏目 留美 (木の宮学園) 寫田 道子 (さくら千手園)

編集後記

最近NHKの大河ドラマが面白い。新選組の物語である。幕末という変動の時代を、仲間達と共に駆け抜けた様子が描かれている。変動の時代、は今の福祉にも当てはまるかもしれない。措置から契約へ、地域療育等支援から中核地域支援へ。時代は移り変わっていく。福祉の未来がどのようになるのかは分からないが、頼りがいのある仲間達と共に良い明日のため頑張っていきたい。ふとそんな事を思った日曜の夕べであった。(高橋克)